



2009年9月発信

報道関係者各位

**APWG、世界中のコンピュータ犯罪に対抗する戦士が集結するサミット
コンピュータ犯罪カンファレンス2009を開催**

詐欺・個人情報盗難を排除にフォーカスする警察機関および世界の異業種団体が構成される、米国 NGO の APWG (Anti-Phishing Working Group、所在地:カリフォルニア州ロス・アルトス市/マサチューセッツ州ケンブリッジ)は、10月19日(月)~22日(水)の3日間、「APWG コンピュータ犯罪カンファレンス 2009」を、米国ワシントン州シアトル-タコマにて開催します。本カンファレンスは、世界中の業界団体・警察機関・研究機関のエキスパートおよび利害関係者を集結し、現代社会が抱えるコンピュータ犯罪における脅威の対象(オンラインコマースの現在と未来を脅かすあらゆる脅威の対象)と、その犯罪に対抗するテクニックとテクノロジーの将来的構想を描く場として毎年秋に開催しています。

APWG コンピュータ犯罪カンファレンス 2009 は、初日に開催される会員のみが参加できるクローズドな「ジェネラル・ミーティング (General Meeting)」と、その後 2 日間にわたって開催される誰もがオープンに参加可能な「eCRS (eCrime Researcher Summit: コンピュータ犯罪リサーチャー・サミット)」で構成されます。

本カンファレンスの特徴は、参加者が技術者のみならず、金融サービス・小売業や通信業界・警察機関および米国・ヨーロッパ・オーストラリアにある多くの大学研究機関など多岐に及ぶ点、扱うトピックもコンピュータ犯罪事件を包括的に詳しく知ることができる豊富な種類を持つ点、IEEE 規格団体 (IEEE-SA) がテクニカルスポンサーとして毎年支援するコンピュータ犯罪研究のみに焦点をあてたテクニカルカンファレンスであり、世界中の利害関係者から論評の対象となる、他に類を見ないカンファレンスです。

「どのようなセクターも単独でコンピュータ犯罪を解決することはできない。APWG の会議ではすべての利害関係者が影響しあう支援団体同士の対話を通して総合的にコンピュータ犯罪の現状に協力し合って対峙し対抗することが可能となり、総合的な協調的アクションにつながる」と APWG 事務総長の Peter Cassidy は語ります。

概要は下記の通り。詳細は別紙の内容紹介と公式サイトをご参照ください。

－ 概 要 －

日 程: 10月19日(月) ジェネラル・ミーティング(会員のみ)
10月20日(火)・21日(水) eCRS: コンピュータ犯罪リサーチャー・サミット(オープン)
場 所: 米国ワシントン州タコマ市(シアトル近辺): Hotel Murano <www.hotelmuranotacoma.com>
参加費: 参加費 US\$350
参加方法: サイト(<http://secure.lenos.com/lenos/antiphishing/eCrime09/>)よりご登録ください
公式サイト: http://www.antiphishing.org/events/2009_gm.html (英文)

<本件に関する日本の問い合わせ先>

APWG 公式企業会員

株式会社日立情報システムズ セキュリティリサーチセンタ センタ長 本川 祐治

メール: y-motokawa@hitachijoho.com 電話: 03-5435-5552

APWG 副事務総長 Foy Shiver

電話: +1 404 434 7282 ・ メール: fshiver@antiphishing.org ・ Twitter: <http://twitter.com/apwg>



<別 紙1>

オープンカンファレンスである「eCRS」での主なトピックは下記の通りです。

犯罪ソフトウェアの進化、ボットネットの進化、悪意ある広告 (Malvertising)、ウェブサイトの脆弱性、ビジネスプロセスロジックの不正使用、電話を使ったフィッシング、コンピュータ犯罪痕跡のトラッキング、コンピュータ犯罪対策の消費者へのセキュリティ教育、コンピュータ犯罪ギャングによるドメインネームシステムの悪用など。また、現在注目されているカウンターフォレンジックや、無線ネットワークの脆弱性、フィッシング攻撃対策手段の改善、脆弱なウェブサイトの識別、フィッシング検知テクニック、フィッシング攻撃の出所のトレーシングメカニズム等に関する論文についても発表されます。

「eCRS」での注目すべき話題の発表トピックを下記に紹介します。

Crimeware Keynote: Stewart on Clampi, the Bank Trojan Blitzkrieg Engine

(訳: クライムウェア基調講演: 「Clampi」銀行口座をねらうトロイの木馬)

by Joe Stewart from SecureWorks

新種のクライムウェア「Clampi」が、システムを攻撃し自動的にシステムに感染しながら同時に暗号化して操作のすべてを隠す強いパワーを持つ点等について説明します。

On Malvertising

(訳: 悪意ある広告)

by Eric Davis from Google

悪意のある広告 (Malvertising) によって、いかに悪意のある人が検索エンジンを悪用して一般人を感染されたサイトや詐欺のために構築されたサイトへ誘導するのかを示します。

P2P File-Sharing Networks: New Trends in Cyber Crime and a Model for Tracking Malicious Individuals

(訳: P2P ファイル共有ネットワーク: サイバー犯罪と悪意のある個人のトラッキングに関する新しい傾向)

by Keith Tag from Tiversa

P2P ネットワーク上でサイバー犯罪を起こす悪意ある個人のトラッキングに関する新しいモデルについて説明します。

Determining Provenance in Phishing Websites using Automated Conceptual Analysis

(訳: 自動化された概念解析によるフィッシングサイトの出所の特定)

by Robert Layton, Paul Watters from University of Ballarat, Australia

自動化された概念解析により、より効率的にフィッシングサイトの出所をトラッキングし特定する方法を紹介します。

Website Vulnerabilities to be Commandeered as Phish Site

(訳: フィッシングサイトに悪用される Web サイトの脆弱性)

by Ebrima Geesay from Booz Allen Hamilton & John LaCour from PhishLabs

ウェブサイトの脆弱性が放置されるといかに簡単に乗っ取ることができるかを紹介します。



<別 紙2>

■APWG について

APWG は 2003 年に Anti-Phishing Working Group として、犯罪ソフトウェア、なりすましメール、フィッシング詐欺などの課題が急激に広がりによる個人情報盗難や詐欺の撲滅に焦点をあて、業界団体・警察機関・政府機関を合わせた形で設立された。APWG 会員には、金融機関、オンライン小売業者、インターネットサービスプロバイダー、警察機関コミュニティ、ソリューションプロバイダーなどが在籍する。企業会員 1,800 社以上、個人会員 3,200 名以上。APWG の公式ウェブサイト<<http://www.antiphishing.org>>では、問題が起きた際の緊急保護を提供する実用的なテクニカルソリューションの推進を含む全世界のフィッシング詐欺とメール詐欺に関する情報を提供している。

APWG の企業スポンサーは下記の通り(ABC 順) :

AT&T(T), Able NV, Afiliat Ltd., AhnLab, AVG Technologies, BillMeLater, BBN Technologies, Blue Coat, BlueStreak, BrandMail, BrandProtect, Bsecure Technologies, Check Point Software Technologies, Cisco (CSCO), Clear Search, Cloudmark, Cyveillance, DigiCert, DigitalEnvoy, DigitalResolve, Digital River, Easy Solutions, eBay/PayPal (EBAY), Entrust (ENTU), eEye, Fortinet, FraudWatch International, FrontPorch, F-Secure, Goodmail Systems, GeoTrust, GlobalSign, GoDaddy, Goodmail Systems, GuardID Systems, HomeAway, IronPort, HitachiJoHo, ING Bank, Iconix, Internet Identity, Internet Security Systems, IOvation, IronPort, IS3, IT Matrix, Kaspersky Labs, Kindsight, Lenos Software, LightSpeed Systems, MailFrontier, MailShell, MarkMonitor, Marshall8e6, McAfee (MFE), MasterCard, MessageLevel, Microsoft (MSFT), MicroWorld, Mirapoint, MySpace (NWS), MyPW, MX Logic, NameProtect, National Australia Bank (ASX: NAB) Netcraft, NetStar, Network Solutions, NeuStar, Nominum, Panda Software, Phoenix Technologies Inc. (PTEC), Phishme.com, Phorm, Prevx, The Planet, SIDN, SalesForce, Radialpoint, RSA Security (EMC), RuleSpace, SecureBrain, Secure Computing (SCUR), S21sec, Sigaba, SoftForum, SOPHOS, SquareTrade, SurfControl, SunTrust, Symantec (SYMC), TDS Telecom, Telefonica (TEF), Trend Micro (TMIC), Tricerion, TriCipher, TrustedID, Tumbleweed Communications (TMWD), Vasco (VDSI), VeriSign (VRSN), Visa, Wal-Mart (WMT), Websense Inc. (WBSN) and Yahoo! (YHOO)